言葉は変わる

月　日　名前

標準（ひょうじゅん）⑧

言葉は変わる

「食べれる」「見れる」という言い方を聞いたことがあるだろう。本来は「食べられる」「見られる」が正しいとされ、「ら抜き言葉」と呼ばれている。このような言い方を、言葉の乱れだと感じる人は少なくない。

しかし、言葉の歴史をふり返ると、言葉は常に変化してきたことが分かる。たとえば「すごい」という言葉は、もともとおそろしいという意味で多く使われていた。それが、程度が大きいことを表すようになり、今ではほめ言葉としても使われている。

では、なぜ「ら抜き」が広がったのだろうか。その理由の一つとして、意味を区別しやすいことが挙げられる。「られる」には、受け身、可能、尊敬などの意味がある。「先生が食べられる」と言うと、どの意味か、すぐには分からない。「食べれる」なら、可能の意味だとはっきりするのである。

もちろん、だからといって、どんな場面でも使ってよいわけではない。改まった文章や、目上の人との会話では、今でも「食べられる」を使うほうが適切である。

大切なのは、新しい言い方を一方的に否定することでも、無批判に受け入れることでもない。言葉が変わる理由を考えながら、相手や場面に合った言葉を選ぶことである。

1 「すごい」は、もともとどのような意味で多く使われていましたか。

□□□□□□

という意味

2 「ら抜き」が広がった理由の一つを書きましょう。

3 改まった場面について、筆者はどう述べていますか。

ア 「食べられる」を使うほうが適切だ。

イ 「食べれる」を使うほうが適切だ。

ウ どちらも使わないほうがよい。

4 筆者が最も伝えたいことを、本文の言葉を使って書きましょう。

ぜんぶ できたら ほしに いろを ぬろう ☆ ☆ ☆

© きりんドリル kirindrill.com